校長室だより

２０２２年９月１６日
校 長　小崎（こさき）　功二（こうじ）

学校 HP

守破離

守破離（しゅ・は・り）とは，ものごとを学ぶ基本的な姿勢，または取り組む順序を意味します。もともと武道や茶道で用いられ，その後，学ぶ場ならどこでも，汎用的に使われるようになりました。もとは千利休の訓をまとめた『利休道歌』にある，「規矩作法 **守**り尽くして**破**るとも**離**るるとても本を忘るな」を引用したものと言われています。

「本を忘るな」とあるとおり，教えを破り離れたとしても根源の精神を見失ってはならないということが重要であり，「基本の型を会得しないままにいきなり個性や独創性を求めてはいけない」という戒めの言葉としてもしばしば使われています。

私は，この言葉に対して，なるほどと感じたことはありましたが，もともと良い印象も悪い印象も持っていませんでした。ところが以前，ある場所で，ある方が，私が知っている教員に対してこの言葉を引用して指導しているのを目にする機会があり，その時，とても不快な印象を受けました。

この言葉を使って指導していた方は，相手の教員に対して，自分の価値観や感覚，自分が思う社会の常識といったようなものとは違う，自分にとって相容れない印象を持ったのでしょう。指導の様子から，その人が考える在るべき姿とは，身なりや言葉遣い等の表面的なことだけなのだとすぐに分かりました。表面的な見た目や態度については，相手に誤解や不快感を与えないように気をつけることは必要で，それ自体は当然大切なことではありますが，本人のためと称して，深く知りもせず知ろうともしない相手を自分の感覚だけで執拗に責めている様子が，私には，ばかにするような，蔑むような，冷酷な態度にしか感じられませんでした。

教員にとっての「守」は，「子供たち」です。指導を受けていた教員は，優しさと情熱に溢れ，心から子供たちのことを思い，日々子供たちのために奮闘していることを，私はよく知っていました。そんな素晴らしいものを持った教員に対して，その良さには全く目を向けようともせず，「守破離」などという借り物の言葉を用いて人格までけなすことは，間違っていると強く感じました。

「守破離」という言葉は，武道や伝統芸能，茶道など，その道に精通した人物が弟子に向かって使うのであれば重みもあるでしょうし，その内容が間違っているはずのない金言であることは確かですが，本来，表面的に取り繕うことが大切だという教えではないはずです。凡人が，自分の好みに合わない者に対して，けちをつける時に持ち出すべき言葉ではありません。その人間の本質を見極めようともせず，何が「守」なのかも見失っている者が使うこの言葉は，極めて暴力的だと感じました。

私たちは日常の中で，格言やことわざ，故事成語などを用いて自分の主張を印象づけようとすることがあります。私自身も，使う場合にはその使い方を誤らないように十分気を付けなければならないと思うと同時に，伝えたいことは，できるだけ自分の言葉で伝える努力をしようと思っています。

切 り 取 り 線

子供たちのための，意見・提案・要望・校長に知らせたいこと　など

2022 年 9 月 16 日（　）年（　）組 児童氏名

※メールでも随時受け付けております。kosaki-k@sendai-c.ed.jp（校長直通）